

8. 英訳と漢訳

「資料」のページに、ガルチェン・リンポチェの法話を集めた『?千語録 Gar Quotes』（?千仏學會）という本から、分担で翻訳していただいています。私がひとりで翻訳して功德を独り占めにしてしまうのは申し訳ないので、みなさまにも功德を積んでいただこうと思って、お願いしています。

この本は、同じ法話について華語訳と英訳とが掲載されていますが、チベット語の原文は掲載されていません。翻訳してくださる方々は英語から訳されることが多いのですが、いちおう私の方で華語訳と対照させていただいています。ときどき英訳しきれないところがあって、華語訳とかなり印象が違っていたりします。

一例を挙げますと、「無縁の慈悲」という法話の中に、

そうした慈悲が生じるためには、何よりもまず心の本質 — 考えや煩惱が、いかに、排斥もせず受け容れもしない不動の虚空のような意識の中に溶け込んでいくのか — を体験する必要があるのじゃ。

という文章があるのですが、英語は、

In order for such compassion to arise, you must first experience the nature of mind --- how thoughts and

afflictions dissolve into the unmoving space of timeless awareness without rejecting or accepting.

で、まことに正確に訳されていると思います。華語は、

要生起如此的大悲心，首先，爾必須証得心的本性，也就是能體驗在不迎不拒的狀況下，念頭與煩惱如何消融於恒常覺性的不動虛空中。

で、大まかには同じなのですが、「考えや煩惱が、いかに、排斥もせず受け容れもしない不動の虚空のような意識の中に溶け込んでいく」というあたりが大変気になります。この「排斥もせず受け入れもしない（不迎不拒的狀況下）」というのは、チベット語の原文では、おそらく『法身普賢の誓願』の中の、

??
??????????

取捨をなさずに解き放ち 明知そのまま保ちつつ

という一節を引用してお話しされていると思われます。そうすると、

そうした大慈悲が生じるためには、何よりもまず心の本性を証得する必要があり、そのためには、いかなる考えも受け入れもせず排斥もしない状況で、考えや煩惱がどのようにして永遠の覺性の不動の虚空の中に溶け込んでいくかを体験する必要があるのじゃ。

くらいに訳しておくのが無難かなと思って、そのように訂正させていただきました。

これと同時に、仏教特有の概念を、伝統的な漢訳語を使って翻訳するか、あるいは現代語に直して翻訳するかも、いつも悩ましいところです。上の法話だと、「本性」だの「証得」だの「覚性」だのは古風な仏教術語ですが、これを現代語にしてしまわないで、伝統的な用語のままにしておいて、読者にそれに慣れてもらう方が、意味が正確に伝わると考えて、伝統的な術語があるときにはそれを採用する方向で翻訳しています。